

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第2回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成28年12月19日（月） 午後4時から午後6時
開催場所	音更町役場庁舎4階401・402会議室
委員出席者	津久井委員長、林委員長職務代理、岡庭委員、加藤委員、河田委員、小林委員、杉原委員、高橋委員、畠委員、森下委員、吉川委員
町側出席者	傳法企画財政部長、渡辺企画課長、西岡企画調整係長、高田企画調整係主任、松嶋企画調整係主事
議題・諮問 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議件 <ul style="list-style-type: none"> (1) 重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書の検証について 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 次回のスケジュールについて
会議資料	<p>※第1回目で配布した資料を使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5期総合計画推進管理評価調書 ・音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書 ・(資料1) 音更町総合計画推進委員会について ・(資料2) 第5期総合計画推進管理評価調書について ・(資料3) 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について ・(冊子) 第5期音更町総合計画、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略、まちづくり町民アンケート結果報告書
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>■重点施策【農業経営の安定化】【担い手、労働力の確保】</p> <p>■総合戦略【ゆるぎない農業経営と生産環境】</p> <p>委員：十勝管内あるいは音更町の後継者問題はこういった状況にあるのか。</p> <p>事務局：後継者がいない地区もあるが、規模拡大の意欲が高い農家も多く、離農後の農地はそれらの方が活用している。後継者が減っているという傾向はある。</p> <p>委員：仮に後継者が減っていても、大規模化していくような意向の人がいるのであれば、TPP等に対抗するにも大規模化というのは国の意向に沿った形になっていると思う。あえてそこを問題視する必要はないのでは。</p> <p>事務局：農村コミュニティの維持等も含め、一定程度の農業人口は必要であろうと考えている。</p>

委員：農業後継者のかなりの人数が独身。今後、大規模化といっても、機械、人手不足が進んでいく状況にあり、大規模化が進んでいるから大丈夫だと言えるのかどうか不安を感じる。

事務局：独身者が多いのは、農家に限らず全般的な傾向であり、音更全体の人口が減少していく中、農業も含め、結婚支援等はこれからの課題である。

委員：農業と工業に関連して、天候や害虫等の影響に左右されない植物工場、農業の工業化の研究が進んでいる。音更での必要性まではわからないが、そういったことも検討できないか。

■重点施策【商業の振興に向けた支援】【ＩＣ工業団地の拡張と、新たな企業の誘致】

【音更の魅力の活用、PR】【農商工親連携の推進】

■総合戦略【本町の強み活かした産業の振興】

委員：ＩＣ工業団地の評価について、重点施策では評価が「４」、総合戦略では「３」となっているが、この違いは何か。

事務局：重点施策方は施策全般に関する評価で、分譲の実績はないものの、企業との相談等は実際に行っている状況であるので「４」としている。総合戦略は、産業振興支援事業とセットで考え、実際に件数が少ない状況であり、もう少し努力が必要との観点で評価を辛くしている。

委員：ＩＣ工業団地を拡張しなければ目標は達成できない状況か。

事務局：全くなくなった訳ではなく、今年もすでに何件か相談等を受けている。拡張には時間がかかると思うが、残地を売っていくことで何件か実績はあると思う。

委員：函館市等で実際にあるが、例えば、町で工業団地に建物を建て、新規創業する人に何年か無料で貸すといったことはできないか。

委員：コミバスが十勝川温泉まで行かない理由は？

事務局：一般の路線バスの利用者を減らさないようにするため、可能な限り路線が競合しないようにしている。コミバスは市街地の役所、病院、商店等をつなぐのが役割で、路線バスと趣旨が異なる。また、路線バスは、本町だけでなく複数の自治体で維持しているのが現状で、赤字であることから一定程度バスの収益を確保しなければならない面もあり、なかなか難しいものがある。ただ、町民の皆さんが十勝川温泉に行きたいという声はあり、路線バスとどう組み合わせるのが課題でもある。

■重点施策【環境の保全に向けた啓発と取り組み】【循環型社会づくりの推進】

【町民主体の環境保全、環境美化活動の促進】

委員：二酸化炭素は家庭からの排出が非常に多く、特に北海道は冬場に二酸化炭素の排出量が多くなることから、国はゼロエネルギーハウスを推進しようとしている。札幌市等は独自の基準を設けて一定基準の家については補助を出すなどの動きもあるが、そういったことはできないか。お金のかかる話で、すぐにどうこうというのは難しいのかもしれないが、町内のハウスメーカーの技術を伸ばしていくためにも、そういう支援的なものがあつた方がいいのではないかと思った。

委員：二酸化炭素の排出量の数値が中間年からかなり増えているが、要因は？

事務局：計算式の中にある排出係数が北海道全体で出てくるのだが、泊原発が止まっている関係で高くなっている。音更の量が増えているわけではない。

委員：指標として比べる時に前提条件を揃えておかないと比較にならない。どこかに根拠等を書いておいた方がよいのでは。

委員長：全体に関係することだが、アンケート回答者からの指摘で、自分があまり与り知らない領域について五択で聞かれても困るので「わからない」という選択肢をつけてほしいというのがあつた。継

統的な統計を取っている中、途中で変えるわけにはいかないと思うが、「わからない」というのがわかることによって、何かわかることがあると思うので、次回に変えるタイミングで、選択肢を工夫した方がよいのではないか。

■重点施策【交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進】

■総合戦略【観光による交流人口の拡大】

委員：観光入込客数で考えると、十勝川温泉に来たくて十勝川温泉に来ている人は、すでに来ているわけであって、「ついで需要」の視点で何かを展開されていくのが非常に重要。例えば、モータースポーツ、ラリージャパンのようなイベントも考えられないか。

委員：車の自動運転の研究を北海道でやろうという話がある。本町にあるテストコースを有効活用できないか。

委員：高速が阿寒までつながり、阿寒まで行くと釧路空港の利用が多くなることが考えられる。帯広空港の利用促進を考えれば、十勝川温泉のスマートICを強く要請した方がよいのではないか。

■重点施策【防災対策の充実】

■総合戦略【安全・安心なまちづくりの推進】

【資料に基づき説明】

委員：自主防災組織率の分母と分子は？

事務局：全世帯数に対する防災組織の世帯数。自主防災組織は町内会とほぼイコールだが、農村部だと複数の行政区で1つの自主防災組織を作っている例もある。

委員：主に地震による災害を考えているようだが、今回の大雨で河川の氾濫が大変心配された。そのことに対して、自主防災組織がどのように動かれたのか、また、町はどのように組織に対策をお話しているのか。

事務局：災害の後、何組織か新たに出前講座でお話をさせていただいていると聞いている。今後も自主防災組織を組織するよう働きかけるとともに、色々な話を聞きたいということであれば、担当が出向いてお話しさせていただくことになるかと思う。今回、車で避難された方が多く渋滞したなどの課題も出てきており、避難体制等については考えていかなければならないと思っている。

委員：一般住民とは別に、介護施設等の対応等はどうかだったか。

事務局：本来はそういった施設の方々には、まずは避難準備情報を出して、避難させなければならなかったが、今回は一気に水位が上がり、いきなり避難勧告にいったような状況もある。今回、色々な問題点が出てきたので、きちんと検討しなければならないと思っている。

委員：防災教育の関係で、最近、本州で、過去に起きた災害等について高齢者からのいわゆる昔語りの形で次の世代につなげていく動きがある。そういった知識、経験の循環に取り組んではどうか。防災もすごく大切だと思うが、復興や避難所運営等の観点も安心・安全のところに含めていったらどうか。避難所の運営に女性が入る、意思決定ができるようなシステムも含め、自主防災組織、消防団の女性の加入率を上げるような取組もどうか。

委員：今回の台風の時に、学校を休みにするかどうかの判断はどのようにされたのか。

委員長：正確に細かいところまでは事務局で把握できていないと思うので、次回に説明をお願いしたい。

■重点施策【交通事故を防ぐ環境づくり】【町道の整備促進、維持補修】

【公園、緑地の整備、維持管理】【公営住宅の整備、維持管理】【水道普及率の向上】

【個別排水処理施設の整備】【地域福祉を推進する体制・環境づくり】

委員：これからは、小学校を拠点にした地域での学校支援ボランティアというような観点も必要ではないか。

委員：町が誇りに思えるようなものを情報発信するような観光ボランティアも必要ではないか。

委員：ボランティアをやる時には相当勉強しなければならないと思う。地元のことを学ぶということで、観光ボランティアだと、地域住民の方たちが改めて音更町の魅力、良さに気づき、最終的には、誇りとか、充実感等につながっていく可能性があり、ボランティアの方自身の成長、変化が期待できると思うので、観光分野におけるボランティアの観点もいい形で経済的な活性化とつながっていくのではないかと思う。ボランティアを組織する側の力量が相当問われると思うので、導入は専門家である方たちにお願ひし、時間の経過とともに、経験を蓄積していく中で、今までボランティアする側だった方がボランティアの指導者になる、あるいは、組織する側になるということで色々な入り口が出来上がってくる。

委員：街路灯、防犯灯設置について、所々暗いと思うところがあるのだが、こういった判断・基準があるのか。

事務局：道路関係の街路灯については、事業でできるものは事業の中で設置している。照度の計算等をして、その間隔でつけていくという状況。ただし、すべての道路で街路灯がつくわけではなく、道道でも農村部に行くと、ほとんどついていないという状況ではある。防犯灯については、町内会と協議し、現地を見て個々に判断して設置している。街路灯と防犯灯の組み合わせというのも一つのやり方。

※事務局より、次回会議を1月中旬以降に開催予定であることを説明。